

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103169
法人名	有限会社 幸心
事業所名	グループホーム つばさ
所在地	松山市 姫原3丁目3-7
自己評価作成日	H26年9月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者に関わる時間を多く取れるように記録・チェック表は最低限にしている 外出希望の利用者にはできるだけ要望に答えられるように外出支援している 毎週土日祝に駄菓子屋をして地域の方とふれあえるように、駄菓子屋をしていない時にも子供達が遊びに来て利用者で過ごす事もある 毎月各ユニットごとに新聞を発行・毎週ブログ更新していて、離れた家族にも近況を伝えている 偶数月にスタッフが持ちまわりで勉強会を行いレベルアップしている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>法人代表者は、地元の方であり、町内会にも出席する等、地域とのつきあいに努めておられる。昨年11月から、さらに利用者が近隣の方達や子ども達と親しく交われるよう、事業所内で懐かしい駄菓子屋を始められた。近所の銀行やスーパーにチラシを置かせてもらう等してお知らせした。「看板ばあちゃん」として利用者が店番や接待を担当したり、お菓子を買ったりもできるような支援されている。時には、職員が近所の子ども達に昔話の読み聞かせをすることもあり、利用者が「私の子供の頃と話の筋が違うなあ」という場面もあるようだ。 年3回の「家族会」では、事業所から行事や利用者の状況等を説明し、新人職員の紹介や退職の報告もされている。前回の家族会では、ヒヤリハットの事例を紹介して話し合われた。全職員が交代で毎週ブログを更新して、利用者の日常生活等を載せたりと、ご家族への情報発信に努力されている。ブログは、特に海外にお住まいのご家族に喜ばれている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム つばさ

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 上田 八千代

評価完了日 H26 年 9 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) セカンドリビングや介護記録に理念を表示している 新人スタッフにも理念が徹底できるように新人研修を行っている	
			(外部評価) 開設時に、前法人代表者が「ひな鳥をつつむ親鳥のような」事業所を目指して、名称を「つばさ」に、理念を「焦らず 怒らず 諦めず」と作られた。法人代表者は職員に「常に余裕を持って、利用者に接するように」と話しておられる。理念に基づき、職員で話し合ってユニット毎に月目標を設定し、日々のケアに取り組んでおられる。月目標はユニットの入り口にそれぞれ掲示されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 毎月1週目に傾聴ボランティアの方に来て頂いたり、児童クラブや保育園などと交流し、公園へ行く子供さんに声をかけたりしている 土日祝には駄菓子屋をして公園に来られる子供や家族とのコミュニケーションを大切にしている また、地方祭や近隣地域の祭にも参加している	
			(外部評価) 法人代表者は、地元の方であり、町内会にも出席する等、地域とのつきあいに努めておられる。昨年11月から、さらに利用者が近隣の方達や子ども達と親しく交われるよう、事業所内で懐かしい駄菓子屋を始められた。近所の銀行やスーパーにチラシを置かしてもらおう等してお知らせした。「看板ばあちゃん」として利用者が店番や接待を担当したり、お菓子を買ったりもできるよう支援されている。時には、職員が近所の子ども達に昔話の読み聞かせをすることもあり、利用者が「私の子供の頃と話の筋が違うなあ」という場面もあるようだ。姫山小学校の児童クラブの子ども達とは、ハンドベルを披露してもらったり、折り紙等を一緒に楽しむ等、毎年交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 土日祝に駄菓子屋をしていて地域の子供達が買いに来てくれ駄菓子屋のないときも遊びに来てくれる 利用者と話したり、トランプする姿もみられる	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議などで家族会も開催し、意見・報告をし話し合いをしている	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			イベントや運営推進会議などに市の介護保険課・社協・包括支援センターの方々にも参加してもらい、実情を見てもらって意見を交わしている	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			特別な事情がない限り拘束は行わず、身体拘束は行っていません	
			(外部評価)	
			玄関、ユニットの入り口は施錠せず、自由に出入りできるようになっている。入居間もないということもあり、「自宅に帰りたい」思いが強い方には、居室の入り口に鈴を付けたり、玄関から出て行かれようとする場合は、止めることなく職員が一緒に出て対応されている。勉強会で「身体拘束」や「虐待」について、学んでおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての勉強会を行いスタッフの理解を深めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度についての勉強会を行いスタッフ全員で話し合う機会をもうけ意見交換している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にはもちろんの事、疑問があればすぐに家族とそのつど話し合っている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、匿名の意見も拾えるようにしている	
			(外部評価) 年3回の「家族会」では、事業所から行事や利用者の状況等を説明し、新人職員の紹介や退職の報告もされている。前回の家族会では、ヒヤリハットの事例を紹介して話し合われた。又、面会時には、利用者の生活ぶり等をお伝えして、意見や要望を聞くようにされているが、意見は少ないようだ。小遣い帳は、適宜お見せし、確認のサインをもらうようになっている。毎月、ユニット毎に利用者の写真を満載した手書きの新聞を発行したり、全職員が交代で毎週ブログを更新して、利用者の日常生活等を載せたりと、ご家族への情報発信に努力されている。ブログは、特に海外にお住まいのご家族に喜ばれている。	ご家族からは、「よくしてもらっている」等の声も多いが、今後さらに事業所の取り組み等についてご家族から具体的な意見や要望を引き出せるような工夫を重ねられ、ご家族のさらなる理解や協力につなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングや勉強会などスタッフ全員参加して、運営・スタッフ一丸となり意見交換している	
			(外部評価)	
			法人代表者は、新人職員の育成に力を入れて取り組まれている。マニュアルを作成し、サブリーダーが指導者になり、2ヶ月の研修を実施しており、新人職員の定着率の向上や職員のレベルアップにもつながっている。法人代表者は、リーダーミーティングやユニット会議、勉強会にも同席し、職員の意見や要望を聞くようにされている。又、ミーティング手当て、誕生日休暇等、福利厚生にも努力されている。偶数月に各ユニットで行われる勉強会は、年間計画を立て、全職員が持ちまわりで担当し、時には外部講師による研修も実施されている。職員は、「勉強会は資料作成やプレゼン等、苦勞も多いが、有意義」と感じておられた。職員は、相互研修にも順次参加し、学びを重ねておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			キャリアパス制度を導入している 各スタッフが毎年自己評価をし目標をはっきりさせている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			キャリアパス制度を導入し、職員1人1人の目標をはっきりさせている 事業所より積極的に研修の案内や参加を呼びかけている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			勉強会や夏祭りなどに参加したり、招待したりして意見交換している	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所する前より経営者と管理者が家族を交えて話し合い情報をとっているのでケアに生かされている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			サービス開始直後は家族にこまめな面会をお願いし、その面会時に普段の様子変化を伝え、これからの方向性を話すように努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			利用者本位のサービスが行えるように、上記の話し合いをする時など本人・家族に相談しサービス提供している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			調理や掃除など無理のない範囲で利用者と一緒に作業している	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			ホームでイベントをする時など、家族と一緒に過ごせる時間を提供している	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			友人や以前の職場の同僚が訪ねて来ることもあり、本人が希望する場所にはできる限り時間を作り外出支援している	
			(外部評価)	
			「生まれ故郷の桜を見たい」という利用者には、職員が同行して訪ねられた。ご本人は願いが叶い、その夜は安心して落ち着いて過ごされたようだ。ご家族と散歩に出かけ、喫茶店でお茶を楽しむ方もある。毎月来られる傾聴ボランティアの方とは馴染みとなり、心置きなく話を聞いてもらえ、利用者は心待ちにされているようだ。調査訪問時、押し車を使用している方が座りやすいように、他の利用者が椅子を引いてあげるといった場面も見られた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を見ながら席を決め上手くコミュニケーションが取れるようスタッフが仲に入りレクリエーションを行っている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も時々、訪ねて来ることもあり必要があれば相談にものっている	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者1人1人について定期的にスタッフ全員で話し合いを行い意向を汲みとろうとしている (外部評価) 入居時に、センター方式のアセスメントシートを使用して、利用者の生活歴や思いや希望等の情報収集に取り組まれている。介護記録には、利用者の言葉を記載して、日々の会話の中で利用者の思いや意向、最期の過ごし方等を汲み取れるよう努めておられる。	ユニットリーダーは、「意思表示が難しい利用者についても、さらにアセスメントを工夫して、ご本人主体の介護計画につなげていきたい」と考えておられた。次回の勉強会では、センター方式の「私の姿と気持ちシート」の活用について学ぶ予定となっていた。今後もさらに、利用者が最期までその人らしい暮らしを続けていけるよう、情報収集や蓄積に工夫して、日々の支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居が決まる前から自宅へ訪問し、できるだけ今まで通りの生活が送れるように細かく本人・家族に要望等きいている時々、調査書式を見直し利用者の状態が詳しくわかるようにしている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 何か変化やできそうな事柄があれば、介護記録や連絡ノートにその都度記入しスタッフ全員で情報を共有するようにしている 各利用者に担当が付きケアプラン案を作成し、ケアカンファレンス時に発表し話し合っている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプラン作成時には職員全員で話し合い利用者本位のケアが行えるように意見交換を行っている 各スタッフが数人の利用者を担当し、ケアプラン案を作成して発表・考察している	
			(外部評価) 前回の外部評価実施後、さらに介護計画が現状に即したものとなるよう、先ず利用者個々の担当職員が計画案をつくり、全職員で考察して、計画作成担当者が、それらをまとめて介護計画を作成する仕組みを作られた。介護計画は、2ヶ月に1度見直されている。今後、介護計画について、ご家族との話し合いや説明の方法等についても工夫していかれてはどうだろうか。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録・チェック表(食事・血圧・検温・排泄・体重・入浴)・連絡ノートに記入しスタッフが把握している 計画作成担当者は日々あったことを支援経過に残し介護計画の見直しに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族希望の病院付き添いや行きたい所などニーズがあれば対応している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎日の散歩が日課となり近隣の施設を休憩がてら回ったり、児童クラブがボランティアに来てくれたりしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所前に話し合いを行い希望があればかかりつけ医への受診も行っている セカンド・サードオピニオンとしての関わりも視野に入れて本人・家族とはなしている	
			(外部評価) 入居後のかかりつけ医は、2ヶ所の協力医療機関から選ぶようになっているが、入居前のかかりつけ医も受診できるよう支援されている。利用者個々に、毎月2度、協力医の往診がある。受診をご家族にお願いしているが、都合によっては職員が対応されている。調査訪問時、かかりつけ医が診察に来られていた。事業所の玄関には、大人用と小児用のAED(自動体外式除細動器)を設置し、地域の方達にも回覧板等で周知されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 訪問看護用連絡ノートを作り往診結果や日々の状態を記入し情報を共有している	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 経営者や管理者が中心となり、お見舞いした時など家族や担当医師に早期退院に向けた話し合いや連携室にお願い・情報交換などしている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所前の段階で終末期の話し合いをしている 状態が変わった時にはその都度話し合いをして、出来る限り本人・家族の要望にこたえられるようにしている	
			(外部評価) 利用開始時に、「看取りに関する指針」を提示して説明し、利用者やご家族の意向を聞いておられる。又、利用者の状態変化時にも話し合われており、ご家族のほとんどは事業所での看取りを希望されるようだ。事業所で最期を迎える利用者は多く、ご家族とともに看取ることができるよう支援に取り組まれている。職員は、安楽な体位や声かけ等、「最期までそのひとらしく」という思いで精神面のケアにも努めておられる。利用者が「ありがとう」と言って、安らかに逝かれる姿に、職員は、辛くともやりがいを感じるようだ。ご家族からは「ここで最期まで過ごせたことは幸せだった」という労いと感謝の言葉をいただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) スタッフの多くが救急救命講習を受講しており初期対応について学び、介護記録に緊急対応マニュアルをファイルしいつでも見れるようにしている AEDを設置し近隣にも知らせている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防に協力して頂き避難訓練を行っている 姫原地区の自主防災会に参加したり、会合にも積極的に行き情報を得ている 経営者が地元な事もあり災害協力体制ができています	
			(外部評価) 毎年、11月には、消防署の指導のもと、運営推進会議時に、地域やご家族の方達も参加して、避難訓練を実施しており、去年は地震発生後、2階台所からの出火想定で行われた。消防署からは「初期消火の重要性」について助言があった。6月には、事業所独自で避難訓練を行い、10分以内で避難させる訓練等にも取り組まれている。地域の方達との日頃からおつきあいからも、避難場所での利用者の見守り等、いざという時に協力してもらえる関係となっている。利用者、職員の喫煙場所は決められている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 時間を作り傾聴を心がけている 場合によっては場所を変えるなど対応している	
			(外部評価) 職員は、利用者個々のペースを大切に支援されている。言葉が発しにくい利用者には、表情や目を見ながら声かけするよう努めておられる。又、声のトーンや大きさにも留意して、対応されている。ブログについては、ご家族等に事前に、名前の表示、写真の提示の程度等について確認し、プライバシーに配慮して掲載されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思表示の難しい場合など伝達が困難な場合は選択肢を作り表情やしぐさなどで判断している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	1人1人の性格・生活パターンを職員が把握できるようミーティング等で話し合い利用者のペースを出来る限り優先している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	介護しやすい服は避けできるだけ本人の好む服装や髪型等にして、外出できる方は散歩がてらカットにいらつていている 外出イベントの際はメリハリをつける為にも外出用の服装の選択や声かけして気分転換している
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	調理前のごしらえを利用者としたり、配膳の手伝いをしてもらっている
			(外部評価)	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	1人1人にその時のメニューに合わせて食べやすい形態にして摂取してもらっている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	利用者の状態に合わせた口腔ケア・1部介助をしている

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 1人1人の表情・排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている オムツをしていてもトイレで排泄することが少しでも長く続けられるようにしている</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援されている。事業所の生活にまだ慣れていない利用者で、居室や居間のゴミ箱等に排尿する状態のある利用者の支援については、試行錯誤しながら取り組みをすすめているところである。トイレの清掃は、毎日午後、及び、汚れた都度、行っておられる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 10時にヨーグルト、15時におやつと水分補給を促している 食事は野菜類を多めに使用している</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 毎日午後から入浴できるように準備している 利用者の好みの湯温・時間帯を把握して入浴の声かけをしている</p> <p>(外部評価) 2日に1回入浴できるよう支援し、毎日入浴する利用者や夜間を希望する方にも柔軟に対応されている。これまでの習慣から固形石鹸で頭も洗う方がある。又、一番風呂を望まれる方にも対応されている。車椅子を使用している方も湯船で温まれるように、職員二人で介助されている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 天候の良い日は布団を干したり、こまめな換気・シーツ交換等している</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	
			利用者全員の使用している薬の種類・副作用・用法・用量をスタッフ全員各自でノートに記入し表を作って把握している変更があったらその都度記入している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	
			手伝う事が楽しみな利用者には一緒に食事や洗濯物干しなど、外出が楽しみな利用者には一緒に買い物に出かけたりしている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	
			利用者1人1人出かけたい場所が違うので時間をみつけ出来るだけ希望に添えるように支援している	
			(外部評価)	「ドライブしたい」「お茶を飲みに行きたい」「スーパーへ買い物に行きたい」等、その日の利用者の希望に沿って、個別に外出できるよう支援されている。新聞のチラシを見て、近所にドーナツを買いに出かけることもある。散歩を日課にしている利用者も多く、裏の公園で子ども達が遊ぶ姿を見るのを楽しみにされている方もある。月に1度は、各ユニット毎に、皆で動物園や菊花展等に出かけられるよう支援されている。車酔いが心配な利用者は、ご自身で酔い止め薬を服用して出かけられるようだ。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	
			基本的にホームで管理しているが、本人の訴えがある人は家族と相談して少額だが自分で管理し使えるように支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	
			電話は自由に使えるようにリビングに設置し、携帯を持っている利用者も数人いる	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ユニット・廊下・リビングには季節感を感じられるような掲示物をスタッフが個性を活かし飾っている</p> <p>(外部評価) 事業所の周辺には田畑が残っており、秋には黄金色の稲穂を眺めることができる。玄関前のスロープにはリンドウの鉢植えが置かれ、菜園には季節の花が咲き、夏にはプチトマトも生ったようだ。玄関には金魚の水槽があり、つばさ文庫と提示した書架も設置し、介護や料理の本が並んでいた。居間は、三方から自然の光が差し込んで明るい。壁には、利用者の写真や職員が撮影したコスモスの写真等が飾ってあった。1階ユニットではウサギを飼っており、利用者を和ませてくれる。利用者が思い思いに過ごせるよう、数箇所にソファを設置されている。今夏は、利用者が菜園で収穫したスイカでスイカ割りを楽しまれた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) スタッフの目の届きにくいところにソファを設置し、見られているという意識なく過ごしくつろぐことができる</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者が落ち着いて暮らせるように家具はなるべく新しい物ではなく馴染みがあり使い慣れたものを持ってきてもらい使用している 仏壇を部屋においている利用者もいる</p> <p>(外部評価) 使い慣れた鏡台にはドライヤーや化粧品が並び、じゅうたんを敷き、背丈ほどの観葉植物を育てている方もいる。仏壇の水を毎日替えてお世話する方もいる。写真を飾っている方の中には、それぞれの写真に奥様の言葉が添えられており、たとえば、利用者とお様が並んだ写真には、「あなたの右手とはぐれぬように」と書かれていた。ソファに座って、テレビで野球観戦している方もあった。カレンダーに予定を記入している方もみられた。居室の清掃は、職員が毎日行っているが、職員の入室を拒む方は、ご自身で行うこともある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 自分でできる事はしてもらい、必要に応じて介助し、トイレ等分かりやすいように表示も変えている</p>	